

# 株式会社 てくてくファーム



## 経営のプロフィール

### 経営概要

平成26年作付状況  
 ・なす (2,531㎡)  
 ・レタス (5,118㎡)  
 ・トマト採種 (363㎡)  
 ・露地野菜  
 (はくさい2,000㎡, ほうれんそう2,400㎡)

### 主な施設・機械の保有

・鉄骨ハウス2棟 (5,118㎡)  
 ・パイプハウス2棟 (848㎡)

### 構成員等

構成員1名, パート4名

### 法人設立年月日

平成25年10月28日

### 認定農業者認定年月日

平成26年2月21日

### 資本金

100万円

### 販売額

1,000万円 (平成26年度)

### 役員名

代表取締役: 佐藤 雅俊

### 主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

- ・園芸特産重点強化整備事業 (産地改革戦略型)
- ・スーパーL資金
- ・農業近代化資金

## 1 現在の経営内容等

### (1) 経営理念, キャッチフレーズ等

あせらず一歩一歩確実に!!

### (2) 栽培技術の特長

施設野菜を春から秋は「なす」、秋から冬は「レタス」の2作体系で栽培している。露地野菜では夏にカボチャを、秋冬に「はくさい」、「ほうれんそう」を栽培して、労働分散に心がけている。また、安全安心な農産物の生産を目標に、天敵を導入したスリップスやダニの防除により、農薬散布回数を減らすことが可能となった。また、夏場の農薬散布回数を減らすことで農薬散布の労働的負担を少なくすることに努めている。

### (3) 販売の特長

- 卸売業者とほぼ全量数量契約販売を行っている。
- 卸売業者にコンテナで農産物を直接販売しており、選果の手間を省力化しているため面積拡大につながっている。
- 卸売業者が庭先に集荷に来るため、輸送コストの節約につながっており、栽培管理や調製作業、経営管理等に時間を振り向けることが可能となった。

### (4) 経営組織の特長

- 取締役は30代前半と若く、将来の近隣地域の担い手として期待されおり、荒谷地区の人・農地プランの担い手として位置づけられている。
- 就農は21歳で、就農してから12年目となる。個人で卸売業者に出荷するようになってから6年目。こ

れまで培った経験を活かしながら、今後の経営の安定を目指して、日々の作業・経営発展に取り組んでいる。

### (5) 労務管理の特長

- 1日の作業終了時には、ほ場毎の作業内容の確認や翌日の作業工程等を打ち合わせて、スムーズな作業が行えるように努めている。
- 季節に応じた就業時間の設定。
- 従業員・構成員の休日をローテーションで、週に1日確保。

### (6) 経営管理の特長

- 会計期間は10月～9月である。税理士の指導による適切な経営管理を行っている。
- パソコンによる財務管理、労務管理を行っており、省力的経営管理を目指している。

### (7) その他の特長

(地域との連携, 環境への配慮, 情報収集・発信等)

ほ場整備荒谷地区内にハウスを建設しており、土地利用調整している荒谷生産組合や大豆生産組合と協同して、地区の活動に参加している。

## 2 これまでの経過

### (1) 法人化するまでの特徴的な歩み

- 6年間なすを鉄骨ハウス1棟、トマトをパイプハウス3棟、露地タマネギ等を栽培してきた。
- 社会的信用の確保と経営体としての発展を目指して、平成25年に法人化を検討、その年の10月28日

に法人化した。

### (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

- 経営の安定と発展を目指していく中で、補助事業等制度面を最大限活用できるように法人化・経営の基盤強化を検討してきた。他産業並みの所得を確保するには生産規模の拡大が望ましいと判断し、法人化した。
- 法人化してからは、取引先から取扱い量の増加の注文があり、法人化したメリットは大きいと感じている。

## 3 今後に向けて

### (1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

消費者への安全安心な農産物の提供と従業員の労働環境改善のために自主GAPに取り組み始めた。将来的には第三者認証のGAPを目指したい。

また、その中で従業員それぞれにほ場管理を任せ、総務的事務・営業及び渉外担当を構成員が担当できる体制を整備したい。

### (2) 今後に向けての経営戦略

経営の柱に施設野菜を位置づけながらも、地域の大豆生産組合と協同を図りながら収益性の高い農業の実現に向けて、実需者ニーズが緩やかに伸びている土地利用型の加工・業務用野菜等にも取り組みたい。

また、県内及び他県の生産者のネットワークづくりの中で、加工・業務用野菜等の産地間連携等や妻の夢でもある「雑貨屋」とのコラボにも取り組みたい。

(調査: 大崎農業改良普及センター)

## 略図



株式会社 てくてくファーム  
 〒989-6252 大崎市古川荒谷字中上67番地  
 TEL 0229-28-2405 (FAX兼用)

## 視察受入条件

繁忙期を除く  
要相談